

国際理解教育/開発教育 学習指導(活動)案

【実践者】

授業者氏名	野瀬 晴佳	学校名	大阪市立今津中学校
教科(科目)・領域	総合的な学習の時間	対象学年(人数)	2年5組(37名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2025年10月 ~ 11月(3時間)		

【実践概要】

1. 単元名(活動名): すべての人が輝く多文化共生意識のデザイン					
2. 実践する教科・領域 総合的な学習の時間	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定) 持続可能な社会の実現に向けて、多様な文化や背景を持つ人々への理解と尊重を深め、無意識の偏見に気づきながら、誰もが安心して幸せの中で暮らせる地域社会をつくるために主体的に行動することができる					
5. 単元の評価規準	①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生(国籍や民族などバックグラウンドの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと)の意味を自分なりに理解し、自分ごととして捉えることができる ・日本で暮らす外国人や訪日外国人の生活課題についての具体的な事例を説明できる ・資料やインタビュー内容をもとに、情報を正確に読み取りまとめることができる 			
	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の無意識の偏見やマイクロアグレッションについて振り返り、多文化共生の課題として捉えられる ・多様な文化背景を持つ人々の立場や困難に対して共感的に考え、課題解決のための具体的な方法やアイデアを創造することができる ・班活動や発表の場で、自分の考えや意見をわかりやすく伝え、他者の意見を尊重しながら議論に参加することができる 			
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の大切さを理解し、自分の偏見に気づくことに前向きに取り組む態度が見られる ・地域社会で外国人のためにできることを考え、自発的に行動しようとする意欲や責任感を持っている ・他者と協力しながら学びを深め、共により良い社会をつくる姿勢を持っている 			
6. 単元設定の理由・単元の意義 【単元設定の理由あるいは単元の意義】 現代社会は、国籍や文化、言語、価値観が多様に混ざり合う多文化共生社会である。本校がある大阪の外国人居住者の増加や訪日外国人の多さ、さらに今年は大阪・関西万博が開催され、国際色豊かな地域とますます多文化共生の意識が求められている。 本単元では、生徒が自分の中にある無意識の偏見やマイクロアグレッションに気づくことから始め、多様な文化背景を持つ人々が日本で直面している課題や困難を学ばせたい。この学びを通じて、生徒一人ひとりが地域の一員として、多文化共生社会を実現する具体的な行動を考え、実践する力を育むことを目指す。 また、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない社会」や「不平等の解消」「平和で公正な社会の実現」と密接な関連が					

ある。多文化共生の理解と実践を深めることで、生徒達がグローバルな視点と地域社会への責任感を養い、持続可能な社会づくりに主体的に関わる態度を身につけることを期待している。

【児童／生徒観】

小学校からSDGsの学習を進めており、中学入学時にはその意義や目標項目の基本的な内容は理解できている生徒が多かった。1年次は、更にSDGsの理解を促したり、個人の興味関心を深めるための学習を行った。その中で教師海外研修で得た知見を活かし、ペルーの日系社会や発展途上地域のことに目を向けた。また、南アフリカにルーツのあるゲストティーチャーより民族問題や難民問題について学ぶ機会もあった。NHK『SDGsかるた』に応募し、各々の理解を深めたり周りに広めたりすることもできた。このような学習を進める中で、今世界が抱える課題を自分ごととして考え、日本に暮らす自分達が世界のためにできることを考え始める段階にある。

【教材観】

今回は多文化共生についてJICAリソースを使ったり、日本に住む外国人の生の声を聞いたりして、生徒達がリアルな感覚を伴って学習を進められるようにしたい。多文化共生をテーマにした理由は、教師海外研修で訪れたペルーの日系社会や、地球の反対側で日本のアニメや漫画に人気があることについて、生徒達が大きな興味関心を抱いたことである。遠く離れた国で日本のルーツを持つ人々が様々な苦労や葛藤を重ねて、長きにわたり生活を紡いできていることや、私達の普段の何気ない暮らしの中での習慣や慣習が大切にされていることに感銘を受けていた。ある日系ペルー人の方が、幼い頃に日本にやってきた時の心の葛藤や、周りの日本人からの言動に傷ついたことなどを知り、生まれ育った環境の言葉や文化が違う中で生活することの難しさを感じていた。将来的に、生徒達も他の国や地域で暮らす可能性も決して低くはなく、また実際に大阪でも様々な国の人が暮らしている。その中で、地球上のあらゆる場所で誰もが心豊かに幸せに暮らすことのできる共生社会を創造する必要性を学び、実生活で意識的に行動に移せることを目的として教材を選んだ。

【指導観】

生徒一人ひとりの考えや価値観を大切にできるよう指導していきたい。決まりきった正解を探すのではなく、一人ひとりが自分の考えを持ち、各々の範囲で意識変革を促せるようにしたい。生徒達が日本で生活している時に外国人と共に暮らす上で必要となる意識を身につけたり、逆に外国で自分が外国人として暮らす時に必要となる意識を学んだりするを通して、あらゆる角度からの視点を持ち、様々な状況に置かれた人々の立場になって考えることのできる共生社会の創り手となることを目指したい。


7. 単元計画(全 3 時間)

時間	ねらい	学習活動	資料など
1	・開発途上国の文化や生活を知り、異文化に対する理解を深める	ゲストティーチャー(エクアドル海外協力隊元隊員)の話聞く ・エクアドルの学校の様子や、エクアドルの子ども達との関わりについて ・ダンスを通じたコミュニケーションについて ・「エクアドルという国の人」「発展途上国の人」というラベリングをせずに、相手を一人の個人として関わることで、深いコミュニケーションが実現できたことについて	JICA国際協力出前講座
2 (本時)	・マイクロアグレッションを知り、違いを尊重するコミュニケーション力を身につける	シチュエーションカードを使って会話する	JICA資料「多文化共生ってなんだろう？」
3	・共生に向けた「自分の言葉・行動」を考える	ALTのインタビュー動画を視聴する JICA教材「マイノリティーの心情理解」を視聴する ロールプレイング	JICA教材「マイノリティーの心情理解」

8. 本時の展開(概略)

本時のねらい: マイクロアグレッションを知り、違いを尊重するコミュニケーション力を身につける

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
-------	-------------------	-------------	--------

<p>導入 (10分)</p>	<p>○本時の説明をする 「先日はJICAの海外協力隊の方のお話を聞き、開発途上国の文化や生活を知り、私達の生活の当たり前が当たり前ではない世界があるということがわかりました。改めて確認すると、多文化共生社会とは、国籍、民族、文化などの違いにかかわらず、すべての人が個人として尊重され、社会の一員として対等な関係で共に生き、能力を十分に発揮しながら自己実現できる、創造的で豊かな社会のことでした。」 「そのような社会を創っていくために、私達ができることは何か。一人ひとりがどんな意識や気持ちでいることが大切か。今日はそのことを考えていきましょう。」</p>		
<p>展開 (30分)</p>	<p>○自分の中のアンコンシャス・バイアスに気づく 「次の文の人物は女性か、男性か、どちらだと思いますか」 Aさん→女性 「14歳からボクシングを始め、17歳でプロデビュー。現在まで26戦18勝。ボクシングジムも経営中。」 Bさん→男性 「趣味はお菓子作り。家族の誕生日にケーキを焼いてお祝いしている。」</p> <p>「ボクシングをするのは男性だと無意識に思い込んでいませんかでしたか？」 「お菓子作りや料理が得意なのは女性だと思い込んでいませんか？」 「私達は気づかないうちに物事を判断してしまうことがあります。」 「これらの無意識の偏見や思い込みのことを、アンコンシャス・バイアスといいます。その偏見が具体的な言葉や態度に表れた無意識の差別的・否定的な言動を、マイクロアグレッションといいます。」 「最初に私達の持つ性別についてのアンコンシャス・バイアスに気づきました。それでは、国籍や民族についてはどうでしょう。普段の生活で外国人の方を見かけることがあったり、友達がいたりすると思います。実際に大阪には2024年12月現在で189,281人住んでいます。皆さんの住むここ、鶴見区では2,426人が住んでいます。色々なルーツのある人達と関わることは特別なことではありません。私達の中の無意識の思い込みを見ていきましょう。」</p> <p>○「シチュエーションカードを使って、相手の立場に立って考えてみましょう」 ①「日本語上手だね！どのくらい勉強したの？」 ②「名前読めないからニックネームをつけてもいい？」 ③「なんだかそのお弁当のおいきついね」 ④「イスラム教では断食をするでしょ？大変そうだね」 ⑤「なんでそんな服を着てるの？」(民族衣装や宗教的な服装) ⑥「え、夏休みに帰省しないの？意外だね」 ⑦「外国人は日本のマナーを知らないよね」 ⑧「見た目ですぐに外国人とわかるよね」 ⑨「どこの国の人？」→「日本人です」→「いや、本当の国籍を教えてください」 「これらの言葉は言われた人にとってどう感じると思いますか？」 「どんな人が言われている可能性がありますか？」 →予想される生徒の意見 ・①日本で生まれて日本語で育っている人。外見は外国人に見えるが、国籍も日本。 ・②本当の名前で呼んでほしいのに… ・③自分の国で大人気で大好きな料理なのに、自分の国を否定された気分</p>	<p>説明をしすぎずに、生徒が自分自身の内側に目を向けられるようにする。</p> <p>大阪市の外国人住民数は年々増加していることを押さえる</p> <p>班で活動を行う</p> <p>日常会話の中で「ほめているつもり」「冗談のつもり」で使っている言葉が人を傷つけている場面があることに気づかせる</p>	<p>多文化共生社会</p> <p>国籍・民族・文化などの違いにかかわらずすべての人が個人として尊重され、社会の一員として対等な関係で共に生きる</p>  <p>大阪市の外国人住民数の推移(グラフ)</p> <p>・シチュエーションカード ・ワークシート</p>

- ・④大変なことではないのにな。変なことのように言われてショック。
- ・⑤なんで？聞かれる意味がわからない。みんながスカートやズボンをはいているのと同じなのに。みんなと違うから聞かれるのかな。
- ・⑥本当は国に帰りたいけど…費用や治安の問題で帰りたくても帰れないのに…
- ・⑦そういう人もいるかもしれないけど、一括りにして外国人と言われたくないな。自分はマナーに気をつけているつもりなのに。
- ・⑧あらためてみんなと違うことを強調されると、壁を作られている気持ちになってしまう。
- ・⑨日本で生まれて日本語で育っている人。外見は外国人に見えるが、国籍も日本。

「誰でもやってしまっていることがある」ことを伝える

率直な意見を出せるような雰囲気を作る

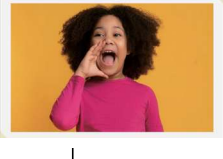
①「日本語上手ですね！どのくらい勉強したの？」



②「名前読めないからニックネームつけてもいい？」



⑧「見た目ですぐに外国人とわかるよね！」



「相手への配慮がある言い方を考えてみましょう」

→予想される生徒の意見

- ・①「あなたの日本語とても聞き取りやすいね」
- ・②「名前の読み方を教えてくれる？ちゃんと覚えたいんだ」
- ・③「いろんな国の料理を知ることは面白いね。どんな料理か教えてくれない？」
- ・④「イスラム教の断食について教えてくれない？」
- ・⑤「その服素敵だね。何か意味が込められているの？」

○全体で共有

「それでは班ごとに発表してもらいます。それぞれ、自分達とは違う意見もあるかもしれないのでシェアしましょう。」

言い換え＝我慢ではなく、「伝えたいことを相手の立場も考えて表現すること」であると伝える

まとめ
(10分)

○まとめ

- 「ワークシートに気づいたことや感じたことを書いてみましょう」
- 「自分達の考えや、他の班の発表を聞いてどんな気づきがありましたか？これからの生活でどう活かしていきたいですか？」
- ・自分達の何気ない考えや行動が、人を傷つけている可能性があることを知ってショックを受けた。
 - ・自分にとっては普通の言葉でも、相手にとってはナイフになり得ることを知った。
 - ・自分の感覚が他の人と同じだというのは思い込みだということがわかった。
 - ・様々な文化の良いところを知ろうとする態度を持ちたい。
 - ・相手の捉え方に配慮しながら、違う文化の素敵な点を見つけてそれを伝えたい。
 - ・アンコンシャス・バイアスについて異文化の人と話す機会を持ちたい。
 - ・傷つけるのを恐れて異文化の人達と関わるのを避けるのではなく、自分のアンコンシャス・バイアスに気づく意識を持ちながら積極的に関わってみたい。
 - ・まずは仲良くなりしたい。

「これからの生活で皆さんがどんな意識で暮らしていきたいか、考えを共有しましょう。」

(何人かに発表させる)



宣言文を作ろう

わたしたちは多文化共生社会を作るためにこれらの意識でいることや行動をとることを宣言します！



	<p>「これから各班で宣言文を作ってみます。これからの生活で皆さんがどんな意識で外国の方と関わったりするか、具体的にまとめてみましょう。」</p> <p>「班の代表の人は各班の宣言文を発表してください」</p>	<p>共生社会を自分ごととして捉え、普段の生活で意識して、小さなことから行動に移せるよう促す。</p>	
--	---	---	--

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)</p> <p>①日常生活の中の無意識の偏見やマイクロアグレッションについて気づき、理解することができた。</p> <p>②自分の無意識の偏見やマイクロアグレッションについて振り返ることができた</p> <p>③地域社会で外国人のためにできることを考え、自分から積極的に行動しようとする意識を持つことができた</p>	
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA 国際協力出前講座 ・学習者同士の交流 	
<p>11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み</p> <p>○JICA国際協力出前講座</p> <p>ゲストティーチャー(エクアドル海外協力隊元隊員)にお話頂いた。JICAからの講師決定の連絡以降は、講師と教師の間で直接やり取りができた。そのため、今回の取り組みの全体像と、教師が昨年教師海外研修に参加した経験から途上国や日系社会に関する生徒の学習履歴を細かくお伝えすることができた。また、2月に行われたワン・ワールド・フェスティバルで登壇されていた講師を教師が偶然拝見していたことから、国際協力・交流の話題で意気投合することができた。講師と教師が直接やり取りできることで、講座の充実度が上がったように感じる。</p> <p>生徒の中には、海外に興味があったり、将来国際協力に関わりたいという人もいる。そのため、今回の協力隊元隊員からの実際の経験に基づくお話は、生徒にとって大変印象深い様子であった。また、対面での講座を希望したことも、大変有意義であった。講師のエネルギッシュな雰囲気や、生徒が海外のダンスを体験できたことは、対面ならではの空気を感じられて、生徒の学びが更に深まった。今の生徒達はインターネットを通じて様々な活動をしている人のことを知ることができても、中学生が海外で活動している人に実際に会うという機会は多くはない。その意味でも、今自分の目の前で話している人が実際に海外に行っていて活動していたという現実が、普段はできない貴重な学びになったようだった。また地域や家庭に対して、学校ホームページで講座の報告をし、生徒が地域や家庭で国際理解について発信するきっかけを作ることでもできた。実際に講座の後に友達や家の人と講座の内容について話した人やこれから話そうとしている人の割合は52%であった。</p> <p>○学習者同士の交流</p> <p>シチュエーションカードを使って、班活動を行った。今回の主な目的の一つに、「自分の当たり前が他者の当たり前ではない」ことに気づくというものがあり、そこに向かう過程で他者との交流が不可欠であると考えた。自分にとっては何気ない一言や行動が、他者にとっては傷ついたり、心を閉ざしたりする原因になるかもしれない。今回は多文化共生、とりわけ外国人との関わりを取り上げたが、日常の学校生活での人間関係にも活かせると思う。これまでにクラスの中でも「自分は言われても嫌ではないから、相手もそうだと思う」ことによる人間関係のトラブルがあった。これまでの生育環境や家庭環境など、様々な背景を持つ者同士が一つのクラスという社会で生活していくことの大変さのようなものを実感している生徒も少なくないと思う。その中で、周りの生徒の価値観を知ることや、他者との比較の中で自分の価値観を知ることが、今後の学校生活に活かすことができるという点で、有意義だったと考える。</p>	



【自己評価】

<p>12. 苦労した点</p> <p>外国人がアンコンシャス・バイアスを感じるシチュエーションを考えることと、その状況がなぜアンコンシャス・バイアスとなり得るのかという理由を考えることが難しかった。自分の中の無意識の偏見は、「無意識」であるからこそ気づきにくいのだと実感した。このことは生徒に気づいてほしいことでもあるので、授業者自身が実感できたことは大きな収穫であると思う。実際、生徒も難しく感じていたようだった。授業者側は予想される意見を考えてはいたものの、生徒に考える手立てとなる有効な助言ができたかは定かではない。また、外国にルーツを持つ生徒の中から「自分は何とも思わない。」という意見があり、対応に困る場面もあった。そこで、同じ言葉でも多様な受け取り方があり、嫌な気持ちになる人もいる、と伝えたが、それも価値観の押し付けになっている気がした。</p>

また、この学びを実際の行動につなげるという目的のため宣言文を書かせたが、当たり障りのない内容に終始した印象がある。個々の意見が反映された宣言文を期待していたが見受けられなかった。

13. 改善点

なぜそのシチュエーションで、アンコンシャス・バイアスを感じるのか、またどう言い換えをしたらよいか、ということについて、1つ例を挙げてクラス全体で考え方を共有するのは有効な手立ての一つと考えられる。まず例を示すことでスムーズな話し合いに入れるかもしれない。また、他の班で出た意見を共有する時間を取りたい。班活動を行う際には、それぞれの班で完結させるのではなく、全体の場で共有することを意識したい。今回は時間の関係上省いたこともあるので、シチュエーションカードを4枚か5枚程度にして、問い返しを深める時間の余裕を持ちたい。

また、価値観の押し付けにならないようにするために、良い考え方・悪い考え方というものではなく、物事をどう捉えるかも自由であるということを生徒としっかり確認しておく必要がある。自分の考えとは違う他の考えを想像することを練習する場であるということの説明しておくことで、「自分は何とも思わない」が他の人は違う考えを持つかもしれないということに想像力を働かせられるようになると期待する。

最後に、宣言文の内容が一般的かつ表面的なものにとどまったことについて考えたい。アンコンシャス・バイアスの導入部分で、自分事として捉えさせる工夫が必要であった。日常生活の中で、生徒自身がマイクロアグレッションによって傷ついたり、傷つけられたりし、葛藤やジレンマを感じた経験などを思い起こさせることで、自分事として捉えさせたい。

14. 成果が出た点

今回、テーマを「すべての人が輝く多文化共生意識のデザイン」とした。生徒は大阪・関西万博で世界の人々や文化と触れ合う機会が多く、世界への興味関心が広がった1年だった。また、昨年の教師海外研修での学びも印象に残っており、生徒との日常会話の中でペルーの話題があがることもある。しかし、生徒達はまだ世界のことを自分事として捉えることが難しい印象があったため、SDGs学習の取り組みを通して、少しでも世界と生徒との距離を縮めようとしてきた。今回の生徒の感想を見ると、実際に自分達の行動を考えることによって、外国の方達との交流へのハードルが下がった印象を受ける。成果が出たと感じられる点として4点にまとめた。

①言葉の壁、様々なコミュニケーション

コミュニケーションの方法は言葉だけではないことに気づいていた。英語が話せなくてもダンスやスポーツなど様々な方法で心を通わせることができる。生徒の中には、今やっているスポーツやピアノなどを通じてコミュニケーションをとってみたいという意見もあった。このように、自分ができる方法で他者と積極的に関わろうとする意識が芽生えたことは大きな成果の一つだと考える。

②国際理解・国際協力の意識

近年、国際協力や支援の認識が発展途上国に向けて「やってあげる」というものから、「共にやる」という考えが広がっている。今回は日本を多文化共生社会にするためにできることを考えるという課題にしたため、「やってあげる」という意見が多くなってしまったという予想をしていたが実際は少なかった。自分がこうしたいとか、お互いにこうしたい、といった意見が多く、同じ目線で異文化を捉えていることがわかった。異文化を単に自分達とは異なるものとして捉えるのみでなく、そこから一歩進んで、まずは正しく知ろうとすることや、寄り添おうとすることに意識が向いていた。

③自己理解と日常の人間関係へ

自分の中のアンコンシャス・バイアスに気づき、今まで自分が知らなかった自分に出会っていた。日常の人間関係でも相手に対して無意識の思い込みを持っているかもしれないと気づいたことで、関わり方を改めていこうとする意見もあった。また、自分の意図とは違う意味で相手に伝わることから誤解が生じ、人間関係のトラブルに発展することもある。言葉の意味や使い方を改めて考えたことで自分や他者を理解しようとする態度が身につく、人と人が関わるうえでの大切なことに思いを寄せられていた。

④行動への一歩

様々な状況に置かれた人の立場に立って、いろんな受け止め方をする人がいるということに想像力を働かせられるようになった。日常の中でも、自分の当たり前が他者の当たり前とは違う、ということを念頭に置き、人間関係を育んでいきたいという前向きな姿勢が見られている。将来海外とつながる仕事がしたいという思いが出てきた生徒や、来年のクラス替えの時に自分から話しかけてみたいという生徒がいた。今回の学習が何らかの形で生徒に影響を与え、行動につながることを期待している。

15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)

【JICA国際協力出前講座】

<意識の変容が見られる生徒の感想>

- ・先入観で人を決めつけず、どの国の人ともコミュニケーションをとることが大切だということがわかりました。
- ・暗い感じの人が多いのかなと思っていましたが、エクアドルには陽気な人がたくさんいることがわかりました。
- ・外国の人は見た目がこわいと思っていただけ、優しい人や陽気な人達がたくさんいることを知った。
- ・今までは言葉が通じないから外国の人と関わることに興味がなかったけれど、今回の話を聞いて、いろんな人と関

わることに興味を持ちました。

・今までは貧困な国などには支援が必要だと思っていたけど、支援だけではなくて心や文化のつながりも大切なことだとわかりました。これからは物事を広く考えてみようと思います。

・今までは貧しい国の人に興味がなかったが、自分も何か力になりたいと思った。

<今後の展望が見られる生徒の感想>

・初めて会った人でも、見た目で判断せず喋ってみないと何もわからないから、ちょっとでも喋ってみようと思った。来年のクラスでは自分から喋りかけてみます。

・もっと外国の方との交流も増やしたい。

・来年、新しいクラスで誰かと友達になりたい時、第一印象だけで、あの子とは友達になれないと決めるのではなく、話しかけてみることを心がけようと思いました。

【本時(アンコンシャス・バイアス)】

<気づきや意識の変容が見られる生徒の感想>

・自分も無意識に偏見を持っていた。偏見があるから言葉も無意識に差別的になっていることがあった。

・無意識に思い込んでいることが自分で思っている以上にあった。

・一人ひとりの考え方や感じ方が違って、人それぞれ個性があつていいなと思いました。

・「意外」などの差別感があると、相手が嫌な思いをすすと思いました。

・言い換えで、言葉がやわらいでいるところもあったけど、遠回しに嫌味を言われている気がするのに気づいた。

・相手が嫌にならないようにする話し方はたくさんあると気づいたため、話し方が考えた方が良くと思いました。

・自分が発する言葉が人を傷つけていたかもしれないという気づきがありました。

・他の班の意見で「あなたはとても話しやすいです」という意見がいいなと思いました。

・他の班の発表を聞いて相手を敬うというワードが多いなと感じました。

・自分がいいと思って発言したのがよくなく思われている可能性があることに気づきました。

・人には見た目で判断しきれない個性があることに気づいた。

<今後の展望が見られる生徒の感想>

・これからは人を傷つけるような言動をしないように意識して行動できると思う。

・自分が発する言葉が人を傷つけていたかもしれないという気づきがありました。

・見た目からの情報で話すのではなく、相手のことを知ってから、ふみこんだ会話をする。

・勝手な偏見や考えを改めてどうなんだろうと考え直し、色々な人との交流を深めること。

・宣言したとおり、見た目で判断せず文化を尊重しあうことは大切だと思うのでこれから意識しようと思う。

・思ったことをなんでも口に出さないようにしようと思いました。

・色々な方への配慮を忘れずに、これから今回の学習を思い出して関わっていこうと思いました。

・見た目で判断して、外国の方だから日本語がしゃべれないと決めつけて、かかわらないようにするんじゃなくて、聞いてみたりするようにしようと思いました。

・外国の人と文化が違うのは当たり前なので、嫌な気持ちになるような指摘をしないようにしてみんなが住みやすい社会になるように意識したいです。

<宣言文>「わたしたちは多文化共生社会を作るために()ことを宣言します！」

・見た目で判断せず文化を尊重しあう

・お互いの気持ちを理解し合い、平等に接し合う

16. 授業者による自由記述

今後の自分自身の課題や、目指す子どもの姿などが見えた。今回は、生徒から表面上の当たりさわりのない意見が多く見られたが、今後は生徒達の心の中にある率直な意見を引き出す力を身につけたい。生徒一人ひとりの心の葛藤のようなものを深く掘り下げて浮かび上がる正直な思いこそが実生活に活かせるし、生きる力につながると思う。誰が考えても同じ、綺麗な意見だけではなく、個々の生まれ育った環境や価値観などを踏まえた、その人だからこそ表現できる生きた意見を引き出すことを目指したい。

とはいえ、今回の学びを通して生徒の中で「すべての人が輝く多文化共生意識のデザイン」の土台が形作られ始めたと思う。これから土台を大きくしっかりとしたものに育てていく素地ができた。多文化共生意識の決まった正解はなく、一人ひとり違うものである。一人ひとり違う意識をみんなの中で育てていくことの過程が、多文化共生社会の実現なのだということを、今回生徒から教わったような気がする。

【参考資料】

・『国際理解教育 地球市民を育てる授業と構想』大津和子

・JICA「多文化共生ってなんだろう？」

・大阪市「大阪市の外国人住民数統計のページ」<https://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000431477.html>

・福岡県女性の活躍推進ポータルサイト https://joseikatsuyakuouentai.pref.fukuoka.jp/unconscious_bias/